

リトアニアの旅雑感 豊かな風土と温故知新



この夏、リトアニアを訪れた。リトアニアの国旗は、右上にあるように黄、緑、赤の3色から成っている。もともと民族衣装に好んで使われた赤と緑の2色のデザインで提案されたが、より明るさを増すため、夜明けを象徴する黄色を加えたという経緯があるらしい。その後、紆余曲折を経て今のデザインに落ち着いたとのことで、現在は、黄は太陽と繁栄（光り輝く小麦とも）、緑は森林と希望、赤は独立を守るために流された血と国民の勇気を表す等と説明されている。

今回、短い訪問の間にも、この3色が象徴する要素に触れることができたような気がするので、それらを紹介してみたい。

まず、やや強引だが、黄と緑を合わせたイメージとして、自然と風土に恵まれ、味わい深い飲食料品が作られているという側面。実際、リトアニアは穀物自給率が300%近く、酪農製品、蜂蜜など農産品の輸出も多いという。ホテルの朝食では毎日豊富な食材を使ったメニューが並び、世界遺産になっている首都ビリニュスの旧市街には、散歩で乾いた喉を潤すのにぴったりの地ビールを供する店が軒を連ねていた。

一方、赤は歴史的な側面。リトアニアには、「独立を守るため」、その時代時代で境を接する国々や布教にやってきた騎士団などと戦い、あるいは戦いを防ぐために合従連衡を重ね、粘り強い抵抗を続けてきた歴史がある。そう思うと、ビリニュス大学の図書館前で野外学習している子どもたちに出会っただけで、知恵こそが未来を創る原動力だなあと勝手に感銘を受けたりする。そういえば、ビリニュス駅構内にも書架があり、ソファまで用意されて、人々がゆったりと読書を楽しんでいた。リトアニア国歌には、「息子らに過去の経験から強さを引き出させよう」という意味の歌詞がある。まさにそんな温故知新の意欲を感じる旅でもあった。

(JOI調査員 寺中)



18か月熟成のチーズ



地ビールと麦の風味豊かなパン



蜂蜜酒（アルコール度数6%から75%までさまざまな種類）



欧州王家との政略結婚が満載のリトアニア支配者家系図



ビリニュス大学図書館前で野外学習する子どもたち
図書館の扉にはリトアニア最古の本が描かれている